

平成22年9月吉日

保護者の皆さま

東京都立武蔵丘高等学校
武陵会会長 高羽 富美佳

武陵会研修 お知らせ第二弾！

「バリ島のケチャ体験！」へのお誘い

武蔵丘高校のPTA武陵会では、毎年一回、保護者の皆さまを対象に研修会を実施しています。今年の研修会はこれまでとは趣向を変えて、「インドネシア・バリ島の“ケチャ”」の体験セミナーとしました。詳しい情報が知りたいとのご要望にお応えして、お知らせの第二弾をお届けします。

地上最後の楽園として人気のリゾート地であるバリ島は、世界中の人々を魅了してやまない芸能や音楽の宝庫です。青銅の交響楽「ガムラン」、巨竹打楽アンサンブル「ジェゴグ」とともに有名なのが合唱舞踊劇「ケチャ」です。日本でも何度も公演が行われ、いずれも大人気を博しています。

ケチャは、100人から200人もの男性が合唱隊として円陣を組み、その中で絢爛たる衣装まとった踊り手たちがインドの古代叙事詩「ラーマヤナ物語」を演じます。合唱隊は時にサル軍勢となって、様々な上半身の動きや陣容を変化させながら、ラーマ王子とラバナ王との戦いに加勢したり、囚われの身となったシータ姫の悲哀を表現しながら踊り手たちとともに一大スペクタクルを展開していきます。

ケチャの合唱隊は、4種類のリズムパターンを「チャッ、チャッ」という鋭い叫び声で刻みます。タンブールというメトロノーム役の人が繰り出す4拍子の上に、それらのリズムパターンが重なり合うと16ビートの精妙なりズムの網目模様が生み出されます。人類が編み出した究極の快感のリズムと言われる16ビート。パターン同士が緻密にかみ合うにつれて、演じる人も観る人も快感が高まっていきます。

そのケチャをバリ人以外で初めて上演に成功した「芸能山城組」（校長先生もその創設時からのメンバーで、ケチャを始めて39年になるそうです）のメンバーを招いて、ケチャを実際に演じながらバリ島の文化に触れてみようという企画です。

ケチャを現地で演じているのは、ふだんは主に農業に携わる村人です。合唱パターンはとて単純です。もちろん少し難しいパターンもありますが、子どもからお年寄、男性だけでなく女性も誰でも参加できるようになっています。簡単なパターンが大勢で組み合わせることで、一人では決して味わえない快感が発生することが、村人を結びつけるのに一役かっているそうです。私たちも「芸能山城組春祭」や「ケチャまつり」で拝見し、ぜひ実際に体験してみたい、これならみんなで楽しくやれると思ってこの企画を立てました。

また、バリ島は「すり鉢」を逆さにしたような火山島で、農業用の水争いが避けられないような地形をしています。しかしながら、争いを上手にさけるためのいろいろなシステ

